

平成 18 年 7 月 25 日

せりがや通信第8号

神奈川県立精神医療センターせりがや病院

薬物依存症家族教室「特別講座Ⅰ」より

薬物依存と家族

医師 小林桜児

「すばらしき新世界」(A.ハックスリー著)という近未来小説をご存知でしょうか?そこでは、もはや人間は産み落とされる存在ではありません。工場で「大量生産」されるのです。ですから、人は母も父も要りません。「親子」も「兄弟姉妹」も無い、「家族」が存在しない世界。人々はあらかじめプログラムされた知能に応じた生活を送り、退屈すれば薬物を気晴らしに使用しますが、依存症の苦しみなど存在しないかのようです。なぜでしょうか?

人が依存症になるには、大雑把に言って3つの要素が必要です。1つは、本人が抱える何らかの「生き辛さ」。それに加えて乱用薬物を本人に提供するルート(売人など)。そして最後に、本人が薬物を乱用しながらも長期間生き続けられるように様々な援助をしてくれる生活支援者(イネイブラー)が必要です。

人は家族の中であって「生き辛さ」を感じる場合があります。また本人を救いたい一心で、家族がお金を援助したり、生活上のトラブルを代わりに解決してあげたりすることで、かえって本人を甘やかし、依存症を長引かせる結果となってしまうこともあります。

一方、家族が自分にとって「生き甲斐」となり、回復の途上であって、大事な心の支えになることもあります。また家族は本人に対して一切援助を手控えることで、本人に「底尽き」を促し、自立させる原動力となることもあります。

「家族」を知らない近未来の人々には、家族をめぐる「生き辛さ」も、家族ならではの「甘やかし」も存在しないので、「依存症」という苦しみが生まれにくいのかもかもしれません。しかしそれは、家族という「生きがい」や、本人と家族が共に成長していく喜びも無い世界なのです。

薬物依存症の場合、比較的若年患者が多く、それだけ家族が巻き込まれる確率が高いと言えます。薬物依存という障害を抱えたご本人や家族の臨床に携わっていると、家族が依存症と関わり、本人と共に失敗を繰り返しながらも、一步一步学んでいく過程は、それまで置き去りにしていた何かを、本人と一緒に取り戻しに行く長い旅のような気がしてなりません。依存症という旅はとても険しく曲がりくねった道のりです。当院が、みなさんの旅の途中、休息をとり、方向を見定めるためのささやかな場所としてお役に立つことを祈っています。



回復期の看護

入院後、急性期病棟で2週間を過ごします。離脱症状が改善し精神症状が安定すると、リハビリ病棟での治療プログラムが始まります。初めの2週間は1時間以内の散歩、買物を通して飲まないで過ごすことを体験していただきます。

次に退院に向けて自己の振り返りをしながら、断酒の具体的な方法を体験していきます。アルコール依存症者は対人関係に問題があり、人との距離のとり方が不得手です。しらふで対人関係を学んでもらうために、当院では親睦会という患者の自治会活動を行い治療の一環としています。治療プログラムの中では自助グループに関するものが増えてきます。自助グループとは断酒会やAAという酒を止めようとする仲間の集まりです。自助グループのメッセージを病院内で受けるだけでなく、自分で歩いて行動を起こすということがとても大切です。プログラムの中にも桜木町AAミーティングがあり、バスに乗って参加しています。入院中から自助グループにつながることは退院後、断酒していく上でとても大切な1本の柱です。この時期に外泊も始まり、家族との調整、職場復帰、住居などの調整のための退院準備をします。毎週第1週を除く土曜日から月曜日までを外泊とし、断酒の意志を固めていただきます。そして、退院後は断酒の3本柱である①抗酒剤の服用②外来通院③自助グループへの参加を勧めます。

<アルコール家族教室のご案内>

A=担当は医師、B=担当はソーシャルワーカー・臨床心理士、C=担当は看護師です。

B 8月 3日(木) C 8月 5日(土)

B 8月 17日(木) A 9月 2日(土)

C 9月 7日(木) A 9月 21日(木)

A 10月 5日(木) B 10月 7日(土)

アルコール家族教室は、アルコール依存症の知識や特質について学び合い、適切な関わり方を共に考えていくことを目的としています。

A・B・Cそれぞれの立場から上記日程で開催いたします。(当院を受診していない患者さんのご家族も参加できます)参加は予約なし・無料です。

開催時間 土曜日=午前10時30分~12時
木曜日=午後1時30分~3時30分
(但し、祭日はお休み)

場所 せりがや病院 2階デイケア室

<薬物依存症の家族教室のご案内>

1=薬物依存症とは 2=否認の心理
3=自分自身を振り返る 4=家族・本人の変化

4 8月 10日(木) 1 8月 24日(木)

2 9月 14日(木) 3 9月 28日(木)

特別講座Ⅱ: 10月 26日(木)

「ダルクの活動と体験談」

薬物依存症家族教室では、シンナー、覚せい剤、麻薬、大麻、処方薬などの薬物依存(中毒)についての知識や薬物依存症の特質について学び合い、適切な関わり方を共に考えていくことを目的としています。1~4回シリーズ、どの回からでも参加可能ですが、4回通してご参加いただくことをお勧めしています。(当院を受診していない患者さんのご家族も参加できます)参加は予約なし・無料です。

開催時間 第2、第4木曜日 午後1時30分~3時
場所 せりがや病院 2階デイケア室

お知らせ

平成18年4月から土曜日のアルコール家族教室は10時30分~12時に変更になっています。

◎予約変更は平日の午後2時~4時にご連絡ください TEL:045(822)0365

〒233-0006 住所 神奈川県横浜市港南区芹が谷2-3-1

<http://www.pref.kanagawa.jp/osirase/byouin/seisin/index.htm>

発行所 神奈川県立精神医療センター せりがや病院 編集委員